

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4391500149		
法人名	株式会社 鎌田電設		
事業所名	グループホームさざなみ		
所在地	熊本県天草市有明町赤崎1974番地		
自己評価作成日	平成26年9月27日	評価結果市町村受理日	平成26年12月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」
所在地	熊本県熊本市中央区水前寺6丁目41—5
訪問調査日	平成26年11月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームは赤崎地域の中心部にあり、周囲を銀行、消防所、郵便局、お店に囲まれている環境の中で地域に密着した施設であります。入居者様と季節の移り変わりを共に感じ生活を送って居ります。又、施設前には無農薬野菜畑が広がっており、入居者様と季節の野菜を収穫、食し、体で季節を感じております。いつでも誰が来所されても気持ちの良い環境作りを目指しております。そして生活主体者としての参加、リビングで新聞、広告を見ながらの何気無い暮らしが日常となっています。地域住民としての入居者様と家族の尊厳や願いを最大限尊重し、その人らしい人生の継続の支援を心がけ活動しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

特別な介護ではなく、ごく自然・普通の生活が過せるように、なにげない支援が行われている。「ゆっくり・じっくり・しっかり」とを理念に、入居者の生活は、それまでの家庭の生活を延長しただけの様に、寛ぎと安心感に包まれて、落ち着いた風情の時間が流れている。地域信用金庫・郵便局・JAがホームのすぐ傍にあり、周囲の一般民家と同じ生活感が漂っている。干し柿が軒下に下がり、庭先の菜園には手入れの行き届いた野菜類が見事に育っており、入居者の食事用として活用される事も。散歩を兼ねて菜園の見回りを楽しみにしている入居者もあり、ホームにとっては種まき・苗植・収穫と、四季を体感できる大きな存在となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づいて行動できるように目に付く所に貼ったりして意識し、毎朝のミーティング、職員会議などで確認、共有し実践に繋げている。	理念は「ゆっくり・じっくり・しっかりと」と、分かり易く・単純な表記となっている。入居者の尊厳を守り、願いを尊重して、その人の人生の継続支援に寄り添う取組みを旨としており、認知症高齢者の権利擁護に努めながら、職員はもう一人の家族となって、日々の生活支援に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の津波訓練にも積極的に参加し、地区のお店を利用したり、ホームの事を知って頂く様に心がけている。又、ホームでの行事にはご近所様、ボランティア等に食事作り等協力して頂いたりして交流をしている。	国道324線から赤崎の信用金庫・郵便局・JAなどが集まる地区にホームがある。一般の民家風の佇まいで目の前に小さな畑があり、玉葱・青菜などが手入れ良く育っている。開設5年目、施設長が地区民生委員長で、近所との協力体制も整えられており、施設行事への参加を頂いたり、避難訓練に協力を得るなどの繋がりが緊密化されている。	天草市はデータによると、高齢化率35.4%で、約半数の世帯が高齢者のみの生活であることが判明している。そこで、事業所の持つ知識や機能を、「講演会・勉強会」などを開催し、地域に還元できる工夫が考えられると、更に良いと思われる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日頃から相談、見学はいつでもお受けしている。入居者様が日頃の生活を実感出来る様に地域の行事等に参加して、認知症になっても安心して暮らせる地域づくりを地域の人々を巻き込んで行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催。入居者様の現状、人数、介護度、日頃の活動、行事などの予定を報告し意見を頂いている。意見などには、職員会議等で共有し話し合い実施出来る様になっている。	会議には民生委員・老人会長・地区代表や包括支援センター・社協など、外部から6名の委員も参加し、ホームの動き・行事や利用者の感想が報告されている。避難訓練の報告では、火災・大雨・津波など、災害によっては求められる行動や避難場所が異なることから、更なる検討の必要性が論じられていた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市へ運営推進会議の議事録を提出する際には、持参し市職員さんにお会いするようしており、相談事がある場合には意見を頂いている。他施設の議事録等も拝見させて頂いたりしている。	市では地域内で開催される「家族介護教室」や「認知症」についての勉強会などを支援しており、ホームからの情報も他事業者や住民に、有効活用される様に共有されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員一同、拘束「0」！！と、自信を持っていた。しかし、玄関の施錠が拘束に当たるとの事で、職員一同、反省し、解除している。	現在の入居者には知らぬ間に外出してしまう人は居らず、ホームの前にある畑に誘うと、苗の育ちを楽しみに見廻っておられる。玄関センサーは必要時のみの作動としていることから、扉が開く音に注意しており、「散歩」と称して一緒にぐるぐる廻りながら歩くことで運動とされていた。拘束については、分かっているつもりと言いながら反復の研修を重ねている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議等で話し合い、日頃でも「これは、どうかなあ？」と、職員同士で一つ一つ確認している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の事は、職員会議等で勉強している。現在まで支援するまでには至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご利用前に、本人様ご家族様と面会させて頂き、施設入居にあたりご要望をお聴きした上で十分に説明し納得されたからの契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に要望が無い聴くようにしている。又、面会時、受診時に意見を聴きとるようにしている。運営推進会議にもご家族の代表として参加頂き、他の方との交流、意見交換ができるように配慮している。	利用者家族からは「現在、グループホームは何ヶ所あり、どのように異なるのか」などの質問等が出され、他事業所の「運営推進会議議事録」等の閲覧希望もある等、積極的な意見も出されている。訪問が少ない家族には、オムツの補充を依頼し、来訪を促すなど、利用者寂しい思いを持たせない工夫も行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の申し送り、職員会議、日々の中での意見交換を行って職員の意欲向上に努めている。又、管理者はスタッフと2人になった時などに考えや意見を聴いている。	「入所者の笑顔は介護者の表情で決まる」と考えており、職員の働く環境を大切にされている。尚、遅番の職員にじっくり話を聴く時間を取り、毎朝の交代・引き継ぎを大切に、其々の意見を尊重して業務の充実が図られている。現在、朝食の準備は法人代表の夫人が対応されており、その分、職員は手厚い介護を行なうなど、職員・入居者の意見をストレートに反映させ、運営に活かされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務延長時間には、別日に早退させたり勤務時間の調整を行っており、やりがいのある職場作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内では、毎月職員会議を開催しており、個々ケア等勉強会も行っている。外部の研修会の案内があった場合には、回覧し希望を募って研修の機会を多くしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	天草市内のグループホームの会議に参加し意見交換等を行っている。又、忘年会、親睦会等に参加し交流している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にご本人、ご家族と見学に来て頂き、コミュニケーションを図り、今後の当施設での要望などをお聴きして、確認等を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記同様に入居前面接等を密にして今後の生活に対する意向の確認を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に面接を行い、広い視野での対応に努めている。ここでの入居が難しい時には他のサービス利用も一つの選択肢として情報提供し対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	以前と比べると出来てきていると思われる。生活の主体者は入居者様と言う視点から家事などを一緒に行い時間を共有している。その中で心が通じ合えるように入居者様との関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様に受診には出来るだけ同行してもらい、共に支えあい、ご本人様との絆を大切にしたい関係作りを心かかっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	努めている。ご家族以外にも近隣の方や行きつけの病院、美容院など馴染みの関係が途切れないように支援をしている。	2週間に一度、パンの訪問販売があり、利用者の楽しみとなっており、近隣の住民と顔を合わせる良い機会ともなっている。また、ドライブで出身地を回ったり、墓参りに立ち寄るなど、元気な頃を懐かしく訪問する工夫も取り入れられている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	掃除、調理など出来る事をして頂き、さざなみでの役割が見つけられるように支援している。席の配慮や利用者様同士の交流の仲介役は職員が行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院で退去される方が殆どである。入院中はお見舞いに行ったり、終了されてもご家族に連絡し、これまでの思い出話をしたりして関係を継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人、ご家族の思いを介護計画に取り入れて支援している。モニタリングで意向を反映した計画になっているのか確認している。	入居者の「自分ではまだ何でも出来るつもり」「行けるつもり」と言う思いを、少しでも実現化させようと、意向の把握に努めている。入居者にはピンクのマニキュアを爪に施したり、農協で好きな物を買うなど、型にはまらない対応が行なわれており、本人本位の暮らしが提供されている様子が伺えた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前よりご本人、ご家族、主治医、ケアマネ等に生活歴、これまでの経過などを確認しこれからも本人らしく生活できる様に配慮している。入居前利用の事業所とも連携をとり、スムーズに移行できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	今まで以上に入居者様おひとりが有する力を気づける観察力をつけていけるように、一日の過ごし方や心身の状態など全体の把握が出来る様に努めていきたいと考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画書作成前にご本人、ご家族、主治医に意向や意見を尋ね、現場の担当者にも気づきを聴き介護計画に反映できるようにしている。	ホームの軒下には数十個の干し柿が、程良い色を付け、太陽を浴びていた。入居者のできる人が職員と共に包丁を握り、皮むきをして作った物。利用者全員の「何が出来、できないか」を担当者を中心にモニタリングし、全員で意見を出し合いながら介護計画に反映させ、より充実した暮らしへと導びく努力が行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日のケアは実践に伴い記録は、なされているが、その結果モニタリングの力が職員間に差があることが現状である為、今後の課題である。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	面会時間の制限もしておらずご家族のご要望があれば宿泊可能な和室もあり、個々のニーズに対して臨機応変に対応できるように職員間でアイデアを出し合い支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	老人会長、区長代表、民生委員の方などに運営推進会議に参加頂いている。又、地域を散歩したり、買い物をしたり、施設行事での地域交流も行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご入居前からの主治医を尊重し、入居後も継続した関係を築いている。また、受診時には、Drへの報告を直接病院へ出向いて看護師が行ったり、電話又は手紙等で報告し指示を受けている。	入所者全員が、以前からのかかりつけ医を利用しており、週一回の通院が一人、2週に一回が二人、往診は2週に一回と、それぞれの体調に合わせて受診している。病院からの送迎がない人へはホームから送迎しており、通院に要する時間を職員配置人員の中で対応することは難しいが、通院同行で得られるのは大切な情報で、施設長・管理者総出での支援がなされていた。	通院介助で外出する職員を補完する体制がどのように対応されているか、少々気になった。施設長・管理者・代表の役割が明確になると良いと思われる。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が日々の体調変化等に配慮し、日頃のケアで気づいた細かな事も相談し適切な受診が受けられるように主治医との連携をとり、手紙、電話等で情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には施設での生活情報の提供、退院時には病院からのサマリーや情報収集等を連携をとり行っている。又、日頃より医療機関の看護師等との情報交換を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に可能な範囲の説明は行っているが、医療器具が必要になった場合は、スタッフ体制が整って無い事で難しい事、入院の必要性があることを説明している。入院までの支援は職員全員で全力で努めている。	ホームでは「病気で入院しても、帰る場所がなければ安心して療養できないのでは・・・」と、退院後を考えて対応となっているが、看護師でもある管理者が医療と介護の役割を家族に説明。入所の際に重度化した際の対応は説明されるが、改めて状況説明し、家族との認識を同じくして、退院されるまで家族としての対応が心掛けられている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	経験年数も増え、自己学習等で理解してきているように感じるが、理解力に個人差がある。職員会議等で学習、訓練を行い実践に繋がられるようにしていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域住民、消防職員を交えての火災避難訓練の実施、消火ホースの連結、消火訓練、AED方法、町内の津波避難訓練への参加にて避難できる方法を職員全員が身に着けるようにしている。	ホームが位置する地域は、海拔2～3Mしかなく、避難場所は高台にある役場となっているが、入居者の手を引き避難場所まで行き着くには、7～8分掛かることから、地域住民の協力を力として訓練にも心掛けている。尚、停電対策として、新たに太陽熱発電を設置し、電源確保を図り、安心へと繋がっていた。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	新人職員にはオリエンテーションで守秘義務に関する書類の説明、記入サインを行っている。又、入居者様に丁寧な言葉かけに努めている。入室する時には、確認了解を得ている。	入居者は女性8人に男性1人。少数である男性利用者の気持ちを尊重し、丁寧になり過ぎず、さり気無く気遣いのある言葉使いが温かく感じられた。昼食後は、三々五々自分の部屋へ戻って寛ぐなど、其々に自由な行動が見られ、トイレへの誘導など、殆んど気付かないうちに行われるなど、プライバシーが大切にされていた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の声を聴くと言う姿勢で日々の生活の中で必ず本人様にお尋ねしてから支援している。自分で表現できにくい方は表情、言動で思いをくみ取れるようにじっくり接している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日、個々の生活を重視しお一人おひとりのペースで行っている。その時々で柔軟に対応できるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の洗面、整髪への支援、訪問散髪などを利用している。馴染みの美容室がある方は、利用して頂いている。洗面、入浴後の整髪など無理なくできている。又、普段着、受診着、就寝着などの区別をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おひとりお一人が出来られる事を観察、把握し、食事作りでの皮むき、食器出し、配膳、ランチョンマット準備、下膳などを職員と一緒に取り組んでいる。	食事用のランチョンマットは家族が仕上げたもので、入居者が毎日洗い・干すなど、職員と見紛う程見事な後片付けの手順をこなす入居者の姿も見られた。配膳・下膳を担当することで自らの食事を楽しみ、刺身が週3回、骨つきの煮魚も何のそのと、漁村ならではの様子が見られた。酢豚が食べたい、柿羊羹を作ろう・・・デザートも手作りで、食事を楽しむ支援があちこちに見られた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事水分量の把握に努め、行事、季節に合わせた献立を考えている。最近では以前の献立を順番に、調理者が再度考えて家庭的な物に決定している。食事摂取量が少ない方は主治医と相談し支持を受けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	おひとりお一人に応じた支援、見守りを行っている。義歯を数日毎に洗浄液につけて、歯ブラシ、コップを週に1回洗浄液につけている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各入居者の状態に合わせた排泄誘導を行っている。訴えが出来ない方は表情、行動を見て誘導したりその都度行っている。出来るだけオムツ使用を減らすように心がけている。	一晩10回もトイレに行く人も居り、病院とも相談しながら対応している。室内ポータブルトイレを利用している人が4人で、布パンツにパッドを使用している人を含め、自立支援の成果を上げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状況を確認し、出来る範囲での運動、体操、歩行練習を心がけている。それでも便秘が続くような時には医師へ指示を仰ぐようにしている。なるべく薬には頼らない方向にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者様より「そがん汚れとらんけん毎日入らんでも良かよ。」と言われたので一日毎とさせて頂いている。入浴拒否の方には無理強いせず時間をずらしたり、介護者を換えたり、翌日にしたり対応、支援している。	風呂場は広く、檜造りの浴槽が中央にあり、介助がし易く感じたが、一人の入浴には広すぎる感も。開設当初は、毎日入浴としていたが、「1日おきで良い」という声が多く、隔日となったもので、季節に応じて、柚子湯や菖蒲湯など、楽しみのある入浴も試みられている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の体調や気分に合わせて休息を入れたりしている。就寝時間はおひとりお一人で違うのでそれまではホールで他者との会話、テレビ視聴で楽しんで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	おひとりお一人何の薬か解るようにカーデックスに挟んでいる。特に注意が必要な場合には看護師が何度もスタッフに指導している。また誤薬が無い様に複数のスタッフで日付け、食前後などの確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様自身が役割が感じられるよう出来る事の活動(洗濯物干し、たたみ、調理の手伝い)の支援を行い、生活の中での気づきを新たな役割として行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個人的な買い物、外出もご本人の希望に添えるように心がけている。また、ご家族にも協力して頂き、時間が作れるように支援している。	下田温泉・松島温泉・天草飛行場見学や三角戸馳花の学校、天草村へアイスクリームを食べに・・・希望者は、自分の財布持参でお出掛け。毎月、お出かけプログラムもあり、入居者の楽しみになっている。お正月や盆など、お泊り帰宅を勧めるが、「寒い、トイレが不便、段差がある」などで、日帰りの外出支援が好まれているように見られた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金の所持したり使えるように支援している	数名は小額の入った財布を持参されている。希望時には、スタッフと買い物に出かける。手持ちが無い方は、会社の付けで、後、請求書にのせている。ご家族には、その都度説明、了解を得ている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様からの電話時には子機で対応している。又、入居者様が電話希望時には、すぐに対応している。近況報告も時折行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設館内は、天窗からの光を多く取り入れている。また、季節の花を飾ったり、台所でスタッフと一緒に調理手伝いしたり、ソファやこたつ、畳などで居心地の良い空間作りに努めている。館内の異臭が無い様に換気、掃除を徹底している。	室内は「昨年と感じが変わった」ではなく、いつもの風景・見慣れた馴染みのある室内空間が保たれており、入居者にとって安心感に繋がっているように思われた。台所の流し・調理台の前窓から自然採光がたっぷり入り、食事スペースは明るく保たれているが、寛ぐリビングは明かりを落として落ち着いた雰囲気を作られていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	施設内にはソファ、コタツ、畳、テレビなど、居心地の良い落ち着いた場所作りに努めている。一人で過ごしたい時には、自室誘導し思い思いに過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	備え付けのタンス、クローゼット、ベッドがあるが、本人の使い慣れた馴染みの椅子、タンス、テレビ、装飾品など自由に持ち込んで頂いている。	持ち込み品でゴチャゴチャした部屋は見られず、殆んどスッキリした居室となっている。それぞれが使い慣れた筆筒や衣装ケースを持ち込み、自分の部屋・家として落ち着いて過ごせる空間としている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の出来る事を把握し、危険な物を排除し日常生活が安全に送れるよう環境作りを行っている。		